

東区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称		実施主体				
ひがし・子どもスマホ安全利用プロジェクト事業		企画総務課				
事業目的	事業効果	活動指標	H28	H29	H30	
<p>子どもたちのスマホの適切な利用を促すリーフレット等を作成し、区役所や小・中学校関係者、青少年指導員、主任児童委員等が連携し、地域全体で子どもたちを見守り育むという意識をさらに高め、家庭の教育力の向上を図る。</p>	<p>・スマホの適切な利用を啓発するミニのぼりを作成した。作成にあたり、青少年指導員、主任児童委員等の方々のご意見をいただいたことは、東区域全体で子どもたちを見守り育む意識をさらに高めている。 ・啓発リーフレットの配付により、子どもたちのスマホ利用のリスクや基本的な生活習慣について、保護者や子どもの気づきを促す。</p>	<p>ひがし・子どもスマホ安全利用ミニのぼり配付数(本)</p> <p>「家族で考えよう中学生活とスマホ」リーフレット配付数(部)</p> <p>「家族で考えようスマホの危険性」リーフレット配付数(セット)</p>	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; position: relative;"> / </div>	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; position: relative;"> / </div>	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; position: relative;"> / </div>	
①妥当性	②協働の視点	③インパクト	④効率性			
<p>◎ 東区教育・健全育成会議の提言を事業化し、東区地域全体で子どもの成長を支え、健全育成の充実を図るためには、区が中心となり実施すべき事業である。</p>	<p>◎ 地域全体で取組を展開するために、ミニのぼりの作成やリーフレットの配付に小・中学校関係者、青少年指導員、主任児童委員等にご協力いただき、協働の度合いが高いと考えられる。</p>	<p>○ リーフレットを学校で保護者に手渡すことは、東区役所が学校とともに子どもの健全育成に努めるイメージを広げることができる。また、ミニのぼりを公共施設だけでなく地域会館等に設置してもらうことにより地域全体で取組を展開していることをPRできる。</p>	<p>○ ミニのぼりを作成する過程において、区役所や青少年指導員、主任児童委員、小・中学校PTAが意見交換することで、学校側から踏み込みにくい本音や直面する課題を認識し、それぞれの立場で取組を展開することができる。また、個人懇談会等で手渡すことは、保護者に確実に届くとともに、学校だけでなく区役所も子どもの健全育成に取り組む姿勢を伝えることができる。</p>			
⑤自立発展性	総合評価					
<p>△ 地域全体で子どもの健全育成に取り組む意識を醸成するために、行政の主導で実施すべき事業である。</p>	<p>○ ミニのぼりを作成する際に青少年指導員、主任児童委員や小・中学校PTAとの意見交換会を実施し、それぞれの立場で取り組んでいただき、地域会館や子育てひろばに設置するなど、区域全体が子どもの健全育成に関わっていくことがPRできた。リーフレットについては、回収したアンケートに「親子でスマホの使用について話し合うきっかけや家族のルールをつくるきっかけになった。」という意見が見られた。しかし、アンケートの回収率が低く、保護者の意見の把握等が今後の課題と捉える。</p>					
今後の方向性(課題、改善提案等)						
<p>拡充 継続 見直し 廃止</p>	<p>子どもに関わる方々と意見交換会を実施することにより、青少年指導員の啓発紙に掲載いただくなど、それぞれの立場で取組を展開していただき、子どもたちのスマホの適切な利用や家庭でのルールづくりに焦点をあてた啓発を推進した。昨年度のミニのぼりの設置に引き続き、今年度は、家庭でのルールづくりを啓発する懸垂幕を区役所に設置した。また、「家族で考えよう中学生活とスマホ」リーフレットは、中学入学説明会で配付し、「家族で考えようスマホの危険性」リーフレットは今年度も4年生の懇談会等で配付し、直接、保護者に手渡すことができた。しかし、同封のアンケートの回収率が低いことから、保護者の意見を聴取する方法を検討し、効果検証を図る必要がある。</p>					